

2022年2月14日

北海道教育委員会  
教育長 倉本博史 様

北海道高等学校教職員組合連合会  
中央執行委員長 尾張 聡

2022年度（令和4年度）の道立高校卒業式日程に関する要請書

日頃より、北海道の教育条件整備にご尽力いただき、また、長期にわたる新型コロナウイルス感染症への対応等にあらわれていることに敬意を表します。

さて、北海道教育委員会は、1月20日付の「令和4年(2022年)公報(号外)」で、2023年度（令和5年度）北海道立高等学校の入学選抜の学力検査日を2023年3月2日（木）にすると発表しました。このことに関して、多くの高校現場から、「3月1日の卒業式はどうなる?」「入選業務と卒業式の業務を同時に行えというのか」との声が上がり、混乱と道教委に対する不信が広がっています。

1月27日の定員教育予算交渉の場で、直接教育長に申し上げたとおり、ほとんどの道立高校は長年3月1日に卒業式を行っており、そのことは広く道内で定着しています。しかし、翌日の2日が「学力検査日」となると、卒業式を行う1日の午後には検査場公開・点検・封鎖をおこなうこととなり、午前中に卒業式を実施したとしても、別れの余韻を味わう間もなく、生徒たちを追い立てるように下校させ、ただちに「学力検査」の準備を行わなければなりません。しかも、当該生徒の現高校2年生は、コロナ禍の第1波の真っ只中で入学し、高校生活でさまざまな制約を受けた世代です。最後の卒業式は、十分に時間をとりたいというのは教職員として当然の思いであり、そのことは、道教委としても十分に配慮すべきです。

さらに夜間定時制を併置している学校では、1日の午後や通常登校していた夜間の時間帯に定時制課程の卒業式を行っている場合もあり、こうした夜間定時制の生徒の心情に配慮した対応が出来ない事態となります。

卒業式は学校にとって「最後の授業」であり、「別れを惜しみ励まし合う場」です。そうした卒業式の教育的意義を無視するかのような道教委の対応を改め、以下の対応をとるよう要請します。

1. 道内で定着している3月1日の高校卒業式を守るため、2023年度道立高校入選の日程を再検討すること。
2. それが困難な場合の善後策として、2022年度の道立高校卒業式については、学校の判断により2月下旬の実施も含めて柔軟に判断できるようにすること。
3. 今後、同様の事態が発生しないよう十分配慮した対応をすること。

以上